

<p>'91年(H03年) 1月正月</p>	<p>仕事に主体をおいた正月休となる。現場の予算書作成に頑張る。合間にゲレンデスキーやランで気分転換。深く考えるほど、前途多難な現場だ。5日、飾磨プールで初泳ぎ。ハイな気分になり、仕事に挑む気になる。</p>
<p>1月から4月</p>	<p>この時期、木見作業所が大変で、日記をつける余裕さえなかったのだと思う。私は20時頃上がっていたと思うが、若い職員たちは、毎日、午前様だったと思う。若い人に苦勞させてしまい、自分でどうにも対応できない屈辱の現場だった。 姫路へ帰ったら、この頃よく飲みに行くのが、ホテルレブンのスナックだ。とにかく安く、若向きの、知られざる穴場だった。幼なじみの、牧野・建部らとよくこの店に行って居た。思い出の娘は、家島のさっちゃんです。 ゴールデンウィークには、仕事上、無理があったが、若い人に任せ、休ませてもらった。</p>



双六岳

辻川氏と共に

5月2日～6日

2日 5月というのに、雪降りしきる平湯峠越えとなる。新穂高で車中泊。 **3日** 雪のなか、わさび平らまで行き、テント。 **4日** ようやく晴れ、双六小屋目指す。弓折岳稜線に出ると、風強く、風雪で視界もない。雪と空間が真っ白で、見極めがつきにくく、気が付けば雪庇の上だ。大声を出しお互いに注意し合う。この稜線では、いつも苦勞する。双六小屋で、オートルートの友、神月氏と出会う。彼はなんと立山から槍に向けての日本のオートルートの最中とのこと。彼のパートナーと他の1パーティーのオートルーターはバテ気味で布団に入っているそうで、神月氏から道中の厳しさ素晴らしさを聞く。 **5日** 双六・三俣蓮華岳を越え黒部源流へ滑りこむ。そして三俣蓮華岳に登り、今度は神通川源流へ。思い存分山スキーを堪能した。 **6日** 下山。槍・穂を眺め、穏やかで素晴らしい稜線歩き。弓折岳からは、緩んだ雪が重く、日陰の限界の急斜面に果敢に飛び込み、微妙なバランスのスキーを楽しみ、充実のフィニッシュを迎える。

「ジャパンオートルート」、辻川氏も私も、意を決することが出来ない。テントを持って立山から槍までスキー縦走なんて……。失敗したら命と引き換えだ。だが、常に前向きのスキーを目指した我らの前に、大きなのしかかっている。さあ、どうしたものか。

わさび平のキャンプサイト



いざ行かん弓折岳の稜線



<p>‘91年(H3年) 5月26日 白浜の海へ初泳ぎ。1年ぶりの海の感触に快感。アサリもいるいる。</p>				
<p>6月 厳しかった木見作業所が、やっと終わる。来年度も続きをやるようになったら、このような失敗を繰り返さない様、体制を整えようと、強く心に決める。須磨日赤跡の造成現場に、160戸程の立派なマンション「グレースー妙法寺」が完成した。造成の土木工事を含め、神戸市の多くの検査を受ける。</p> <p>アルプでリバーカヤック購入。どんなにパドリングの調整をしても、まっすぐに進まない。カヌーとの取り組みは、それからスタート。エスキモーロール習得のための、涙ぐましい努力。白浜の海に毎日のように通った。海と空と夕日。白浜の海も捨てたもんじゃない。</p> <p>初めての川下りは、安全な円山川へ。玄武洞から日本海まで。そして、スタート地点の車デポ地までランです。</p>				
7月14日	氷ノ山	佐久間	登山	東尾根からぶん回して鉢伏へ。車のデポ地までさわやかラン5キロ。これがお気に入りです。
7月31~8月3日	立山~五色ヶ原	単独	登山	オートルートの意を決しないのに、偵察に訪れた。しかし毎日雨で山小屋で停滞ばかり。何も見えない。薬師岳まで行きたかったが、五色で引き返す。
<p>引き続き、木見の現場を受注し、私が担当する。昨年度を超える大きな工事。やり方を慎重に考え乗り込む。又、宿舎を構え木見の人になる。仕事は、順調に進み、夜の酒が美味かった。</p> <p>ランは、静かで自然が豊かな住宅街のモーニングランです。しあわせの村でスイムとランもよくなりました。</p>				

<p>°92年は雪の少ない年でした。ゲレンデスキーにも山スキーにも1~2回ほどしか行っていない。そして木見の現場に情熱を注いでいる。最後の土工の仕上げ時期に、雨にたたられ苦労したが、4月末、上々の結果を持って完成。各下請けの、工事調整の協力を深く感謝。</p>			
5月21日~24日	仕事都合で、ゴールデンウィークの休みをずらして2週間の休日を取った。行き先は、3大雪渓といわれているひとつの、針の木雪渓を滑って、東北へ向かい、月山・鳥海山・八甲田山を滑ろうというもの。東北を滑るチャンスは今年しか無いと決した。		
針の木岳登れず。東北も雨で登らず。単独	21日 扇沢へ。車のそばでキャンプ。 22日 曇り空の中、針の木岳へ向かう。2時間も登っていると、激しい雷雨となり、樹林帯の中で待機。少し収まった頃、早足に下山してしまう。東北へ向かう。山形の朝日町で、雨の中で車中泊。 23日 月山・姥沢へ行く。登り口まで来たものの雨。完全に戦意喪失。とりあえず鳥海山へ車を走らす。鳥海山登山口でも雨。真だ、1度も山のいただきを見ている。天気予報は、真だこのような天気が、続くとのこと。外れてくれない天気予報に、今回の計画を諦め、長い姫路への帰路につく。		
5月28日~31日	中央アルプス	単独	山スキー
			5月に入って、異常気象で山のいただきは雪がよく降り、天候が落ち着いたところで、中央アルプスの初山スキーに出かける。東北では、散々な目にあい、このままシーズンオフを、迎えるわけに行かなかった。山は新しい雪が豊富で、頂上木曾小屋をベースに気に入った斜面を好きなように滑り、飽きたら、素晴らしい景色を、いつまでも眺めていた。夜は酒を飲み、小屋番に色んな小屋守の話聞かせてもらう。頂上木曾小屋と中央アルプスが気に入ってしまった。





6月5日～7日	中央アルプス	辻川・池淵	山スキー	<p>今年は残雪が長い期間あり、この時期でも十分楽しめる。駒ヶ岳山頂直下から幅の狭い急斜面を、気合を入れてやっつける。頂上木曾小屋をベースにスキー三昧。</p>
				<p>コース紹介 宝剣山荘側から千畳敷カール: 上部は、やや急で狭く両岩壁が迫り、圧迫感もある。下は広く緩やかになり、ロープウェイに群がるスキーヤーが目障り。何度も滑るところじゃなく下山の、最後の滑りです。 極楽平から千畳敷カール: 幅広く全体に急斜面で、1枚バーンのようで意外と変化あり楽しい。 極楽平付近: この付近で遊ぶのもいい。ランチタイムにもいい。 宝剣岳南方のコルから千畳敷カール: 大変急で狭い。雪の状態が決め手。滑るところじゃない。 宝剣山荘・中岳付近(2900m)から駒飼の池→黒川(2250m): 最も滑りやすく、変化もありロングが楽しめる。 駒ヶ岳山頂直下より北面の細尾沢: 日が当たり、雪がやや緩んだ頃がいい。思いきって急斜面にスタート。最初の1・2回転のジャンプターンが勝負。この滑降高低差も2900から2300付近までは、滑れる。登り返しは、駒ヶ岳西方の、ゆるい斜面を見つけ、目指そう。</p> <p>なお、カール以外で滑ってる人は、今まで見たことも無い。三の沢岳に、登山のピストンもなかなかいい。</p>



山から下りたらスイム・バイク・ラン。それに、カヤックで白浜の海や、市川の瀬に遊びます。この夏、マウンテンバイクを購入し、会社の稲葉・浜本氏らを誘って、広峰・峰山・黒川ダムなど、オフロードのバイクの感触を楽しんだ。ロードレーサーは、スピードの魅力で、MTBは、山の景色とオフロードの感触が魅力だと思う。

六甲山へはよく行っているが、始めて須磨浦公園から宝塚まで行っているが、道に迷い大変だった。六甲山は、摩耶山までが自然の中でいいと感じた。

ランの大会は、神鍋始め色々出てるが、小豆島のフルが本命だ。小豆島では、会社の海辺のリゾートマンションに泊まる。

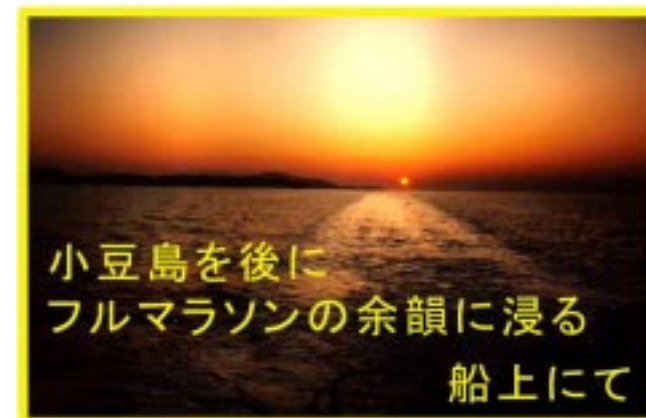
バイクは、新宮の160キロが恒例だが、この年は、備前の130キロにも出ている。

街でよく会う大塚氏に誘われ、浜名湖のカヌートライアスロンに参加。このグループの中に、後に短期間だったが、私の信頼なるパートナー三沢氏や、三沢氏の舎弟のような森岡もいた。森岡は、大阪体育大のラグビー部キャプテンを務めた男で、さすがにすごいパワーの男だ。

12月にはクロカンスキーを購入し、ゲレンデで練習。

11月29日三田市広野で、福知山線複線化工事を受注し私が担当することになる。何年かかるか分からず、図面はほとんど無しで、金は10億程度と、さっぱり見えない工事内容。波乱の4年半の現場が静かにスタートした。





°93年1月1日	戸倉～三ノ丸	単独	登山	7時30分やまめ茶屋出発。林道は20cmの雪だが、ジープが入り荒れている。二股を過ぎた登山口では40cmの積雪でノートレース。よく晴れた空のもとで、初冬の雪山を楽しんだ。
クロカンスキーの練習に、やまめ茶屋から二股までのピストンを、3回ほど行っている。二股まで、行きは登りばかりの体カトレーニングで、帰りはスピードがやたらつき、バランスが大変難しい。平地や緩やかなアップダウンのフイールドを探すと、引原ダムの上の対岸の林道があり2月11日初トレース。それ以来、ここは、ゲレンデスキーと抱き合わせたクロカンコースにする。この頃、辻川氏と5月のオートルートを決している。				
3月14日	やまめ茶屋～氷	単独	山スキー	やまめ茶屋からシール登行(8時15分)。すぐの雪崩の巣では、デブリが有り、ジープはここまで。それより山屋の世界となる。氷ノ山山頂(13時～13時45分)、やまめ茶屋到着(15時半)。今シーズン初の山スキーを楽しんだ。
‘93年(H5)3月20日	奥神～蘇父	単独	山スキー	新雪が50cmも有り、蘇父へのアップダウンが大変だ。曇り空からとうとうガスと雪まで降る。名色との分岐で、蘇父へは向かわず、名色へ滑りこむ。夜は、正面山トンネルの山下・玉田・長屋らと久しく集まり、フグを魚に、楽しいひととき。
3月21日	東尾根～氷～流れ尾根	単独	山スキー	二日酔いだが快晴。今日も雪の山へ。山頂から流れ尾根は、ダイナミックスキーが味わえる。
3月27日	東尾根からピストン	単独	山スキー	オートルートの情報集めだが、東京の上月氏から色んな記録を送ってもらったり、専門雑誌の記録を集め、情報をかなり仕入れる。
4月2日	東尾根～氷～ぶん回し	単独	山スキー	コシキ岩までは何度か滑っているが、ぶん回しは初トレース。氷ノ山越え間では、変化に豊んだ素晴らしい山スキーが楽しめる。最後の鉢伏は、小代越えから雪を拾い下へ下りる。藪を漕いだりしてやっと畦道に出る。荷物を置いて、ザックに偲ばせたジョグシューズに履き替え、車のデポ地の国際スキー場へラン6キロ。



4月10日	氷ノ山越～山頂～流れ尾根	単独	山スキー	今年が残雪が例年より多く、それにこのところ寒く雪の日が多い。雪の積もった林道を、何とか登山口まで車で上がれた。雪のちらつく中、20cm程の新雪につけられたトレースをたどる。お堂を過ぎた谷の横断で先行者に追いつく。雪壁を超えられず彼らは残念し下山。私はピッケルを支点に通過し、トレースをつけながら山頂を目指す。氷ノ山越えからは、新雪が輝く見事な氷の景色を満喫し、流れ尾根を滑り下りる。国際スキー場も半分滑れた。オートルート4月30日出発に決める。
4月16日	流れ尾根～氷、ピストン	辻川	山スキー	お互いの調子の確認を兼ね、流れ尾根ピストン。まだ国際スキー場は、半分滑れる。
4月18日	佐久間・稲葉・浜本各氏と六甲山へハイキング。帰りに辻川宅へより、飲みながら打ち合わせ。			
4月25日	六甲山	辻川	辻川家の裏から六甲山・旗振山～須磨アルプスまでピストン。辻川氏は大きなザックにアイゼンピッケルでイメーヅトレ。彼のナビゲーターチェック。色々打ち合わせし、すべて準備OK。出発は29日とする。	
4月28日	装備を整える。ザックとウェストバッグで18キロ。ヤルツキヤない。			